

深・魅力通信

袋井あやぐも学園一貫教育研修会でつながる保幼小中 その3

「学び・体・心・生き方・特別支援・授業」のグループに分かれて行った分散会では、「西小学校の子どもの姿や表れ、教師の指導や掲示も含めた仕掛けを手掛かりに、学園の教科&教科外カリキュラムが目指す姿」を話し合いました。



【特別支援】

- ・大変落ち着いていて、交流学級にたくさんの児童が行けているのが良いですね。
- ・字の大きさを調整するなど、その子にあったプリントが準備されていました。同じ教材であっても、個に応じてねらいを変えるなど、とても細かい支援が行われ、「個別の指導計画」が生きていると思いました。

【授業づくり】

- ・幼稚園では、「遊んでみて気付いたことを教えてね。」と声を掛けて、活動の振り返りをしています。子どもたちは「底が平らなどんぐりが強いよ」「茶色のどんぐりも強いよ。」など、楽しそうに「どんぐり相撲」の活動を振り返っています。
- ・「まとめの時間」を意識的に入れた方が良いと思います。袋井あやぐも学園の授業モデルを示すことも大切だと思います。

講演会では、鳴門教育大学教職大学院久我直人教授から「特別な支援・配慮が必要な生徒への対応の在り方」についてお話をさせていただきました。



心を「**ボイスシャワー**」で整え、**行動**を「**聞く指導**」で整えることが大切。シンプルで、誰でもできる、でもとても大切なことを、学園みんなで行っていることが素晴らしい。

教師と子どもの信頼関係が築かれ、潤いのある温かいまなざしでお互いを見ている。

学びづく・心づくり・体づくり・生き方・特別支援・授業づくりなどの、様々なチャンネルから学園の子どもたちの健やかな成長のために、当事者意識で真剣に話し合っている。そのつながりが、学びの安定、集団として安定となって表れている。